

第4回リカジョ育成賞 -奨励賞-

テーマ	理系進路の魅力を伝える & ジェンダーバイアスの軽減
受賞者名	NPO 法人あなたらしくをサポート、女子中高生のための関西科学塾、 荒牧中学校学校運営協議会、伊丹市教育委員会
活動紹介	<p>「理系進路の魅力を伝える」および「女子≠理系というジェンダーバイアスの軽減」を目的として、中学2年生に3年連続で授業を行い、小学校でも講座を始めた。</p> <p>■特徴1：特別な進学校でもない「普通」の公立中学校で授業として学年全員を対象に行っている。つまり、理系に興味・能力を持つ生徒だけでなく、ジェンダーバイアスなどのために「自分の能力に気づいていない生徒、すでに理系に拒否感を持っている生徒」もターゲットとした。また男女両方を対象にすることで、公立学校で授業として行うことを可能とした。男子のジェンダーバイアス軽減も意識した。</p> <p>■特徴2：地元 NPO（企画運営）、市教委&学校&学校運営協議会（開催場所）、大学（講師派遣）が、おのおの得手を生かして連携して実行している。</p> <p>■特徴3：授業の「質」にこだわり、講師選択や講師との事前準備に力を入れた。講師は趣旨を理解し、プレゼン能力の高い人材から抽出。科学や進路の幅の広さを伝えるため、70分ひとコマに講師5名を（大学教員、社会人、院生、大学生を理系の広い分野から）選出し、内容の濃い授業をともに作り上げた。</p> <p>■特徴4：事前事後アンケートで、中2ですすでに持つジェンダーバイアスや、授業の効果を毎年数字で見える化した。このことで中学校の先生方とこの授業の意義を共有でき、学校とともに毎年授業を行う基盤を育てることができた。</p>
PRメッセージ	進学校の生徒やイベント応募者が対象ではなく、一般的な公立中学校で授業の一環として2年生全員を対象としたところが、一番の特徴です。

授業「前」の意識の男女差

	女子	男子
理系進路を考えている	36%	54%
科学技術を必要とする職業に就きたい	18%	35%

中2にして、既に理系に対する男女の意識差は大きい。3年連続同じ結果。



中学生もリリリの質問タイム。
意識して長めの時間を確保。

授業による女子中学生の意識変化

- ①「理系進路を選択しようと思う」
(授業前 36%⇒授業後 65%) **29%UP**
- ②「科学技術を必要とする職業に就きたいと思う」
(授業前 18%⇒授業後 46%) **28%UP**



200名の意識を70分間集中させるために
様々な工夫を凝らした。